

ヘレナ

私はあなたの傍に居ないとたまらなくなるの。

デイミー

正気か？人里を離れ、君を愛してもいない者の手に身を委ねるなどと。それに夜だ、  
どんなことが起きるか知れないし、人目のないこんな所では、どんな邪心が首をも  
たげるとも限らない。分かっているのか？

ヘレナ

でもあなたが私を守ってくれる。あなたのお顔を見ていればそれは夜ではない。そ  
れにこの森だって人目のない場所ではない。私にとっては、あなたが全世界なのだ  
もの。どうして一人だなどと言って？こうして全世界が私を見つめているのに？

デイミー

一々返事をしている暇はない。さあ行かせてくれ！どうしてもついで来ると言うな  
ら、森の中でどんな目にあっても知らないからな！（退場）

ヘレナ

ええ、神殿でも町中でも、あたしは随分ひどい目に遭わされたわ。あなたの仕打ち  
は女全体に対する辱めよ。でも、私はついて行くの。そしてこの苦しみが天国の喜  
びに変わるのを待つ。愛しい人のかかるのなら本望だわ。（退場）